

京都教区時報

第189号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上の河原町カトリック会館5F



ア・シアでも最も開発が遅れていると言われるほど貧困確かに首都ダッカの線路沿いのスラム街をのぞいてみると、人間が生きる最低の限度とはここまでくるものかと胸を打たれる。

日本をはじめ先進諸外国の経済援助が膨大な額で

続けられても、政治や経済のシステムの問題やそこに関係するわずかの人間の不正や悪意が原因で

援助を待つ一般の人々

とくに極貧の状態にある人々の暮らしにまつたく

その効果を生み出さない。

本当に悲しくまた憤りを感じます。

いつすべての人々が人間らしい暮らしをすることが出来るようになるのか。

ものに溢れた環境のなかでそれほど真剣味もなく生きている日本の自分たちがバングラディッシュの人々の前でなぜ「豊かな社会」を生きていると言えない。

彼らのために働く司祭たちは「福音」を彼らと共に生きようと生き生きしている。私もこの日本で

「福音」を証ししたい。
バングラディッシュを尋ねたから。

(大塚喜直神父)

今年も庭の大きな櫻に若芽が芽吹き美しい緑が5月の太陽に輝いています。

この季節になりますと、若くして主のみ許に召されたS・A君が天国から語りかけてくるように感じますので、彼の思い出を通していただいた恵みを分かち合いたいと思います。

術は、進行性筋ジストロフィー症」の難病で聖ヨゼフ整肢園で訓練や勉学に毎日賢明な努力を続けていました。じわじわと進行する病気との戦いにめげることなく、いつも明るく愉快に、年少の子供達に親切でよいお兄さんでした。

ある年の2月、彼は、断念していた高等学校に入学したいと言った。しかし彼の体力は弱く、わずかな気候の変化にも絶えられず、最も危惧していた風邪を引き、車椅子で入学許可を頂けるよう奔走しました。しかし彼の体力は弱く、わずかな気候の変化にも絶えられず、最も危惧していた風邪を引き、車椅子で

子にも乗れなくなりベッド上での生活、そして点滴注射、酸素吸入などなど……。

*

3月のある朝、彼は話がしたいと私を呼びました。窓から屋根越しに見える大きな木をじっとみながら、「僕はあの桜の木が好きです。いつも僕を励まし、一緒に生きようと言ひかけてくれました。でももう今年はあの木の若葉を見ることができないよう思います。今日までは僕もあの木のように一生懸命生きてきました。が、もう

棋擣

け や き

シスター・ホスチア堀家

がら、「僕はあの樺の木が好きで、いつも僕を励まし、一緒に生きようと語りかけてくれました。でももう今年はあの木の若葉を見ることができないように思います。今日までは僕もあの木のように一生懸命生きてきました。が、もう

た。あの木には力強い生命がいっぱいあります。春になると、裸の
ような木から柔らかな若葉が、どんどん成長して夏には太陽の陽射
しの中でたくさんの葉がひとつずつねりのようく風に揺れ動き台風
には全力で戦い、秋には美しく紅

あれから25年がすぎ、今年も樟
に美しい葉が茂つてきました。一本の木を通して語つてくれました
忘れるこのできない心からの出
会いは、すべての生命が共に創造
主を賛美し、感謝し、今ある生命
を大切に生きることを心の深みに
満たしてくれました。

あれから25年がすぎ、今年も一桿に美しい葉が茂ってきました。一本の木を通して語つてくれました。忘れる事のできない心からの出会いは、すべての生命が共に創造主を賛美し、感謝し、今ある生命を大切に生きることを心の深みに満たしてくれました。

彼は天国で神様の創造のすばらしさを賛美していることでしょう。

美しい聖母の月、自然界の生命と共に主を賛美しましょう。

難しい」。

*
あえぐような呼吸をしながらつづけました。「僕がここに入院した日からいつも眺め、木陰で遊んだり、落ち葉を拾つたり、病室から語りかけていた親しい友達でし

葉して木枯らしに吹かれ、吹雪の
ように舞い散つて裸になり、冬の
寒さにも風にも雪にも負けず、枝
をいっぱいに広げてまっすぐ天に向かって強く逞しく立っています。
春の来るのをじっと待ちながら……」
と言いつつ主のみ許に召されましたが。
17歳の春でした。高校生の制服姿の写真がほほえんでいました。

右近祭

奈良教会 道下匡啓

● 羊の群れのように

今年も右近祭の季節がやつてきました。年々参加数が減少している中で、今年は子供の数が例年よりも多かったのが何よりです。奈良教会からも日曜学校の家族約40名が車10台に分乗して一路榛原に向けて出発したのですが、何しろ10台編成は初めての経験で、途中信号機付近では何度も停車しながらこそ羊がはぐれないように必死の思いで目的地にたどり着きました。



● 空には鯉のぼり

会場は高山右近が少年時代を過ごしたという沢城の麓の田んぼで、上空を真一文字にクレーン車でかげた大きな鯉のぼりが風になびき、路上では地元の方が出店した草もち、焼鳥、おでん、おみやげ屋さんなどがある実にのどかで穏やかな田園風景です。

式典は顔馴染みの司会者の方、

● 空には鯉のぼり

会場は高山右近が少年時代を過ごしたという沢城の麓の田んぼで、上空を真一文字にクレーン車でかげた大きな鯉のぼりが風になびき、路上では地元の方が出店した草もち、焼鳥、おでん、おみやげ屋さんなどがある実にのどかで穏やかな田園風景です。

● 空には鯉のぼり

会場は高山右近が少年時代を過ごしたという沢城の麓の田んぼで、上空を真一文字にクレーン車でかげた大きな鯉のぼりが風になびき、路上では地元の方が出店した草もち、焼鳥、おでん、おみやげ屋さんなどがある実にのどかで穏やかな田園風景です。

町長さんはじめ地元子供会の皆さんとの楽しい進行で次第に盛り上がりで行きます。今年一番の特記事項は何といっても田中司教様が数年振りに元気な姿をお見せになつたことです。式典の中で、司教様は、高山右近にまつわる様々なエピソードを話してくださいました。が、中でも「数いる戦国武将達の中で海外にまで銅像を建てられた日本人は高山右近の他に聞いたことあります」というお話を聞いて改めてその偉大さを知ることができたような気がします。一方、売れ筋の焼鳥や草もちなどはすぐ売り切れてしまうため、式典の最中も気になつて仕方がありません。式典の前後が勝負なのです。最近では到着したらすぐに買うことにしています。

● 運動会

● 感謝

午後の部では恒例の右近音頭を半ば強制的に踊られ、ごほうびにお菓子をもらいます。地元子供会の方達も踊りを披露してくれています。途中踊りながら、いつもこの輪の中で満面の笑顔で両手を一杯に広げて踊りのリードをしてくださっていた西大和教会の坂口素子さん(今年3月25日帰天)の姿を思い浮かべながら、淋しさをこらえて懸命に踊り続けました。踊りが終わると、いよいよ運動会のはじまりです。ボール蹴り、アメ食い競争、二人三脚など毎度お馴染みのゲームなのですが、何せ地盤が田んぼなのでちょっと勝手が違います。私は3歳の娘といつしょに久しぶりに参加しました。アメ食い競争では、オペール神父様から「あなたもちゃんとやるんですよ!」とはっぱをかけられおかけで、アゴひげが真白になるほど粉の中に顔を突っ込んでしまいました。そして運動会の最後は、恒例の参加者全員による綱引き大会ですが、勝つても別に何も出ないのに翌日足腰が立たなくなるほど力一杯綱をひいてしまったのは、私だけでしょうか?



● 楽しい一日に

そんなことなど知らない私たちとは、運動会や何やら一生懸命、田んぼを踏み固めてしまっていたわけです。今年も昨年に引き続きお天氣にも恵まれ、田中司教様が最後まで見守る中で子供たちとともに楽しい一日を過ごすことができました。その姿は、まさに牧者と羊の群れそのものであつたよう思います。神様の深いあわれみに心から感謝いたします。

NICE準備委員会から

●代表者の変更について

京都教区のNICE代表者のうち、辻原誠次さん(LOC)と、松井和泉さん(御所教会)は、家庭や仕事の事情により辞退されました。お2人に代わる代表者は次の2名です。

内藤 淳(LOC・青年)
薮下道子(登美ヶ丘・青年)
どうぞよろしくお願いします。

●第2回代表者会の報告

去る5月8日、河原町カトリック会館にて第2回の京都教区NICE代表者会が開かれました。

まず、5月22・23日に開かれるNICE担当者会議に向けての中間報告の確認が行われました。この中間報告は、今後の参考にするために各教区に求められたものですが、京都教区では、各代表者の方と準備委員の方にアンケートに答えてもらつたものをまとめて中間報告としました。

京都教区の中間報告の要旨は次質問(1)分かち合いを通して感じたこと、見えてきたことの通りです。

- ① 分かち合いの困難さ
- ② 教会共同体の問題
- ③ 具体的な課題——滞日外国人、家庭の信仰教育、祈り、家庭内不和、高齢化、共働きの問題など。
- ・評価——共感、共有をもつて分かち合いができる教会もある。また、共同体の問題が見えてきた、ということも評価できる。
- ・全国会議後も共同体づくりのための話し合いを進めてゆく。
- ・全国会議も本音で分かち合う。
- ・各層、各地域の声がまんべんなく出るようになる。
- ・課題やテーマを細分化してほしい。
- ・具体的提案が出るようになる。
- ・身近なNICEを。

質問(2)、「その他」については前号で報告した内容をまとめました。

●NICEのビデオができました。

京都教区NICE準備委員会制作のビデオです。田中司教のあいさつとオヘール神父、柳本神父によるNICE解説が30分にまとめられています。お問合せは、各地区の代表者、または福音センター・柳本(075-822-7123)まで。

NICEⅡに向かって 三重ブロックの 今日までの歩み

第2回ナイスのテーマ「家庭」と決まった90年6月から約2年後の昨年7月にようやく当ブロックのナイス代表の選出のための準備委員が決定した。

こうして外枠が少しずつ具体化するに伴い、司教団からの課題の取り組みも教区作成の「分かち合いの手引き」等により順次模索から方向性を見出し「家庭」という広範囲な条件下での話し合いが徐々に鼓動しはじめた。勿論小教区により差異はあるもナイスⅡへの明るい希望が伺われる。

その一つに昨年の9月(四日市教会)での壮年大会はテーマ家庭のもとに相馬司教を招き、今迄各地区で行われた分かち合いの事例などを持ちより、交えながらの分科会では一歩ずつではあるが、前進の兆しを見る事が出来た。また必ずアドバイスを続けている。

- ◎尚これらに備えて小グループの動きもナイスⅡに向けて「TIF A」(津国際親善協会)は従来外郭団体として活躍していたが、昨年よりカトリック教会に事務局を設置し、外国人(ブラジル)他4ヶ国の人々が地区集会で話し合いが始まり、フィリピンより「BBC」(基礎共同体)のリーダーが着任。
- ◎悩み事相談 このグループは家庭での様々な問題に対処するために窓口を教会に置き、週一回専門的な指導者が夫と妻、家庭内暴力、登校拒否等々適切なアドバイスを続けている。
- ◎当初は迫りつつある全国大会に不安とあせりを感じた事も何度かあって「呼びかけて招き誘えど集まらず」最初は少人数で同じ顔ぶれ、ああ、またか、でもそれも月に必ず一回集まる人々は真剣に時には涙して聞き合う事も。
- そんな時このナイスの話し合いの必要性を痛感すると共に、秋の大会のためではなく、私達が生涯続く果たさねばならない課題なんだ、そのため弱い私達のために主の導きを祈りつつ。(代表GS)

司祭修道士研修会

●テーマ「新教会法における家庭」

93年司祭修道士研修会が、5月

10日～12日に、鳥羽市の戸田屋であります。例年は8月に行うのですが、夏期休暇で留守の人がいる事や、夏の青少年の合宿と重なつて参加者が少ないので、今年は

この時期に行う事になりました。

しかし、メリノール会のアッセンブリーと日程が重なつてしまい、参加したのは、田中司教と18名の司祭だけでした。

テーマは「新教会法における結婚についての学習会」で、サン・スルピス神学院のラベル師より講義を受けました。

●結婚の目的は、夫婦の善益と子の出産および教育

旧教会法典では、結婚の第1の目的、すなわち子の出産と教育と、第2の目的、すなわち夫婦の相互扶助と情欲の鎮和とに分けられていましたが、新しい教会法では、結婚の誓約の目的は、夫婦の善益と子の出産および教育に向けられているとされ、結婚の目的に序列をつけていません。

●混宗婚

混宗婚について、今まで日本では例外規定としてゆるされているだけでしたが、新しい教会法では、条文の中に明記されています。

混宗婚は、地区裁治権者の許可で許されますが、その条件はカトリック信者の当事者が信仰を守る

事を約束し、又、子供がカトリック教会において受洗し教育を受けよう努力する旨約束する事、更に、信者でない当事者がカトリック信者の当事者の約束を理解する事、最後に、両当事者が結婚の目的と本質についての教えを聞く事です。

●結婚式は一度だけ

今まで、親戚などへの配慮のため神式、仏式などで結婚式をあげる場合でも、カトリックの教会で式をあげるように指導してきましたが、これからは、そのような場合は、免除の申請を出せばよい事になりました。

詳しい事は、所属の主任司祭にお尋ね下さい。又、披露宴の会場を予約する前に必ず連絡して下さい。

(文責・滝野)

教区内 外国人労働者への 取り組みについて

5月の司祭評議会で、国際協力

委員会担当司祭のガーラード師より報告を受けました。

まとめのみお知らせします。

オヘール師

地区長・大和郡山・西大和カト

リックセンター主任兼任

グリーン師

登美ヶ丘教会主任・登美ヶ丘幼稚園園長

ギニー師

富雄・大和八木教会主任兼任

タロック師

御所教会主任

ヒル師

大和高田教会主任

ハーリム師

大和高田教会在住

ウイックス師

大和高田教会在住

ニユージェント師

特別養護老人ホームサンタマリ

ア施設長

ウイルソン師(3月～9月)

マリスト会本部在住

G・ASAの活動

四日市教会ではミサに来るフィリピン人の世話をしています。

マリスト会本部在住のレイミッシュョンが来られます。

マリスト会の司祭 93年4月より

將軍塚に聖母歌流れれる

京都原町キリストン研究会
河原町キリストン研究会



都の聖母讃仰ミサが、去る5月9日(日)、午後2時より、京都東山、円山公園の山頂、將軍塚において、ヴィアトール会ナドー師の司式を得て、厳肅かつ盛大に行われた。

参加者約30名、市内各地から来られた皆さんで祭壇を作り、同師を囲んでの野外ミサ。師の説教にも熱が入り、「この素晴らしい、由緒ある、この地で、皆さんと一緒にミサを捧げられることが嬉しい」と。

時々、山あいから、サーと吹いてくる5月のイタズラ風に、ローソクの灯が消えたのも何度か。しかし、参加者の熱心な祈りに、いつしか祝福の風に変わっていた。

私たち、この偉大な歴史を、改めて振りかえり、感謝し、信仰に導かれた喜びをかみしめ、毎年、

緑の山々、木々にコダマする聖歌が流れること約30分、ミサは無事終了し、ナドー師を中心に、全員で記念写真を撮つて散会した。

ちなみに、この「都の聖母像」の由来は、「日本教会史」を読み、ザビエル師と彼に続く宣教師の努力、数多くの殉教者の犠牲に感動したロバン師が、ザビエル師が日本に携えてきた聖母像を模して作られた6体のブロンズ像の内の1体である。

1965年、教皇ピオ十九世により「日本の都の聖母」の称号で祝別を受け、パリ外国宣教本部から、日本の都「京都」に一日も早く宣教師が入れる日が来る様に、京都を見おろす丘(東山、將軍塚)に埋めて下さないと託されたもので、ビリオン師によつて運ばれ、ルイス原田によつて埋められ、その後ビリオン師によつて掘り出されたものである。

私たち、この偉大な歴史を、改めて振りかえり、感謝し、信仰に導かれた喜びをかみしめ、毎年、

この5月にミサが行われ、少しでも多くの参加者があることを願つてやみません。「ああ、土に埋もれたまま、日本のために祈り給い

し聖母よ、我らのために祈り給え」

ビリオン師の唱えられこの祈り、どこからか聞こえてくるようだ。

高山右近が

殉教者として列福されるよう祈りましょう

殉教者への取り組みについて、5月の司祭評議会で、田中司教よりの諸問事項として話し合われました。

高山右近を福者として列福しようという運動が以前からありましたが、福者としては問題があり、殉教者としてなら可能と

いう事で現在運動が進められています。

しかし、ヴァチカンは運動がどれだけ盛り上がつているか調査するために使節を派遣する予定です。そのためには、祈りの力ードを配つて皆で祈る事になります。

私たち、この偉大な歴史を、改めて振りかえり、感謝し、信仰に導かれた喜びをかみしめ、毎年、

東欧の教会を訪ねる旅

ボーランド
チエコ・スロバキア
ハンガリー
(京都教区司祭)
同行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

旅行代金
(福岡・大阪・成田発着)
675,000円

旅行期間
8月23日(月)
9月3日(金)12日間

最低催行人員
15名
(京都教区司祭)

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀
貨物一式(仮式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
(075)312-7829

あんてな (((((お)))))

が盛況のうちに終わりました。前日の雨ふりを思えば、当日の青空は恵みと思いました。これまで、時間をかけて準備してきたひとりひとりの思いが通じたのでしょうか。そして大勢の方がいらして、楽しんで帰っていただいたこと、準備の段階からたくさんの人々の協力があったことなど、心からみんなで作った「フェスター」だったと思います。普段それぞれの場で活動していることを大勢の人々に伝えることが出来、互いに交流を深めることも出来たとおもいます。それは次にまた活動していくためのエネルギーとなつたのではないか。はじめることはたやすいが、続けることは難しいと、どこかでどなたか言われた言葉を思います。ただ、続けていく上で、とても必要なことは「ひとりでやるんだ」ではないということです。

(実行委員会一同)

盛況だつた フェスター

5月23日(日)信愛幼稚園にて
(((((お)))) あんてな

こんにちは
シスター
Sr.伊藤照子



メリノール女子修道会

た事でした。日本人こそ優れた民族だという考えを捨て、回りにいる多くの隣人から学んで行こうとする彼女の旅の始まりでもありました。

今年、ニューヨークにあるメリノール女子修道会本部で、10名の会員が銀祝を祝いました。その内の一人、Sr.伊藤照子は京都出身で、現在養成担当者としてお礼申し上げます。おかげさまで、無事、盛況のうちに幕を閉じることができたことを心より感謝しています。本当にどうもありがとうございました。

京都市の仏教徒の家に生れたシスターは、4才で受洗しました。ノートルダム女学院高等学校を卒業後、マニラのメリノール・カレッジで数学を専攻し卒業しました。シスターは、外国宣教師としての召命を感じ、1968年にメリノール会に入会しました。

入会の動機は、自分自身が今まで持っていた、アジアの人々に対する文化についての偏見に気づいていく上で、とても必要なことは「ひとりでやるんだ」ではないということです。

メリノール女子修道会は、アルコール中毒者の家族が、本人をほうとう娘を迎える気持ちで受け入れよう助ける事でした。

シスターの役割は、アルコール中毒者の家族が、本人をほうとう娘を迎える気持ちで受け入れよう助ける事でした。

尚、現在メリノール女子修道会のシスターは、22ヶ国から約80名います。世界の33ヶ国で働いています。主に、アジア、アフリカ、太平洋、ラテンアメリカとアメリカで働いています。

教区スケジュール

(河原町カトリック会館)
18日(日)堅信式(衣笠教会)

▽京都南信徒協議会

29~1日 制度の見直しを考える
全国司祭の集い

(河原町カトリック会館)

2~4日 信徒使徒職養生コース

(河原町カトリック会館)

(唐崎祈りの家)

4日(日) 結婚互助会相談室

(河原町カトリック会館)

▽墓地委員会

(河原町カトリック会館)

▽河原町教会関係の神父・
職員感謝ミサ

(河原町カトリック会館)

▽名古屋新司教叙階式

(布池教会)

8日(木) 司祭評議会

(河原町カトリック会館)

9日(金) 信睦二金会(西陣教会)

▽NICE II講演会

(河原町教会)

11日(日) 堅信式(津教会)

▽編集部よりおわびと訂正

6月号の4ページの記事にある、
ジユウード・タデウス・ペシンガ

ー師の日本名は「自由陀」ですの
で、ここに訂正して、おわび申し
上げます。

15日(木) 司教顧問会

(河原町カトリック会館)

月例会

(河原町カトリック会館)

▽京都南部・邦人教区司祭

(河原町カトリック会館)

17日(土) 部落問題委員会学習会

(河原町カトリック会館)

17日(土) 部落問題委員会学習会

上記申しあげます。

お知らせ

「となりのトトロ」上映
主催・福音センター
日時・7月28日(水)午後1時半
場所・西院カトリック会館
入場無料

▼名古屋教区の新しい司教として、
野村純一師が選ばれました。7月
4日布池教会で新司教の叙階式が
あります。

▼部落問題委員会学習会
日時・7月17日(土)午後7時
場所・河原町カトリック会館6階
テーマ「伝承文化と同和教育」
9月10日(金)社会司教委員会・
田中司教参加(東京)

12月8日(水)Xマスページェント
(津・セントヨゼフ)
(変更)
7月8日(木)司祭評議会
7月1日の予定を取り消し

第93回基礎コース
日時・8月27日~29日
場所・津研宗館
費用・17000円
申込締切・8月5日
福音センターまで 075-822-7123

▼信徒使徒職養生コースの案内
テー
マ「信徒使徒職養生コースの案内
テー
マ・正しい祇園祭の見方
日時・7月16日(金)10時30分~
場所・西院カトリック会館
費用・500円
加入者 615名
(5月17日現在)

▼「一万匹の蟻運動」基金報告
累計 2,976,521円
募金総額 2,835,008円
プラジルへ 1,500,000円
パレスチナへ 1,300,000円
詳細は次号でご報告いたします。

▼教区中学生広島体験学習
日時・8月4日~7日
費用・13000円
申込み・各教会へ7月3日まで
問合せ・桂教会北村神父まで

▼1992年ウォーカソン報告
募金総額 2,835,008円
プラジルへ 1,500,000円
パレスチナへ 1,300,000円
詳細は次号でご報告いたします。